

アルファルファ新品種「ケレス」(豊作の女神)

抜群の永続性、今年の春も永続性が確認されました。

研究農場の位置する長沼の今年の冬は雪が多く、融雪も一週間遅くなり、アルファルファ黒色小粒菌核病が多発し、萌芽が例年よりも10日以上も遅くなりました。その中で、ケレスの萌芽の良さと永続性が、写真に示すように今年も証明されております。

写真1は平成14年に開始した個体植の試験、4年目5月17日に撮影した圃場の状況です。写真中の左ラベルから順に、M品種、ケレス、A品種、V品種であります。永続性と萌芽の良さが一目瞭然です。

写真2は当場の平成16年に造成した自給草地の3年目、5月15日の状況であります。写真右側が新品種「ケレス」、左側が販売品種Aです。

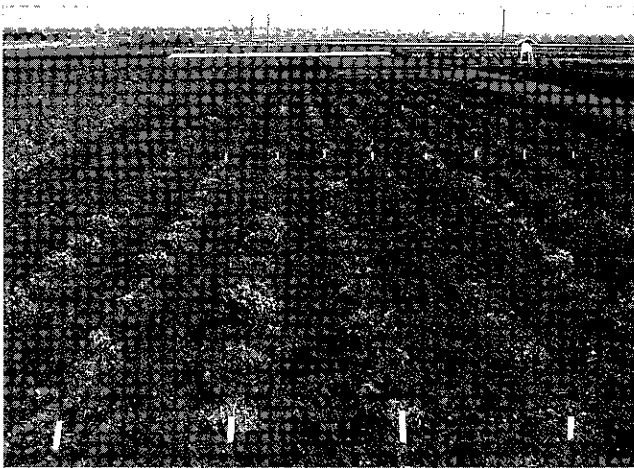


写真1 左ラベルからM品種、ケレス、A品種、V品種 (平成18年5月17日撮影、長沼町弊社農場)

図2に示した'01~'04年の試験結果が再度確認することができ、永続性(適応性)の改良にとって雪腐病に対する抵抗性を強化することの重要性も確認できました。

今年は秋までに、もうひとつの特長である「そばかす病抵抗性」についても確認する予定であります。

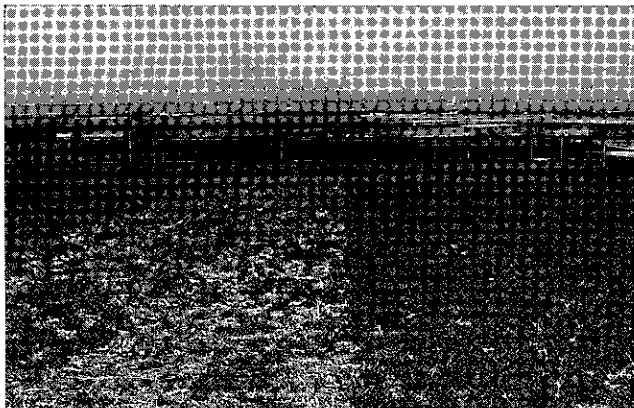


写真2 中央右側がケレス、左側がA品種 (平成18年5月15日撮影、長沼町弊社農場自給草地)

この病害は冷涼な気象条件下で発生し、やせた圃場において助長されます。図2に、品種選定試験期間に発生が確認された観察評点をマキワカバと比較して折れ線グラフに示しました。評点は罹病程度で示しており、値が大きいほど罹病程度がはなはだしいことを示しています。図中の高い評点値は秋の調査時点であり、この時期によく発生することが解ります。

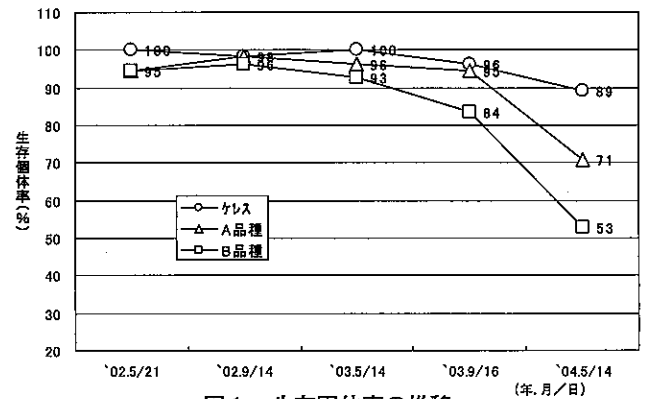


図1 生存固体率の推移

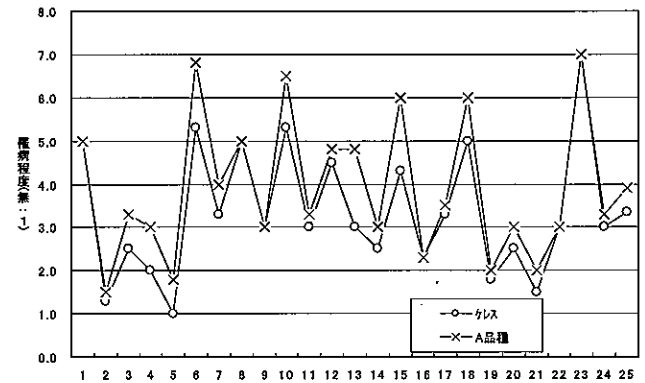


図2 ソバカス病罹病程度 (各試験場において発生が認められた時の調査値)

利用方法

単播利用はなかなか栽培と利用が難しいために、チモシー主体草地ではアカクロバの替わりに2~3kg/ha混播を勧めています。また、アルファルファはギシギシ用の除草剤「ハーモニー」の薬害が少なく、枯死することがなく好評を得ています。

(北海道研究農場 高山)

雪印種苗株式会社

編集発行人 長尾 漱
本社004-8531札幌市厚別区上野幌1条5丁目1番8号

TEL (011)891-5911

FAX (011)891-5774